

第22回（令和6年度第1回）三重県子ども・子育て会議

日時：令和6年8月28日（水） 13:15～14:15

場所：オンライン会議（会場：三重県勤労者福祉会館 2階 第2会議室）

出席委員：岡本陽子委員、駒田幹彦委員、大井戸清人委員、鈴木基朗委員、
宇佐美直樹委員、森田明美委員、服部高明委員、辻木慎吾委員、小田悦子委員、
磯和雅志委員、田中茂範委員、山本壽人委員、田部眞樹子委員、中村明里委員
（以上14名）

議題

(1) 報告

令和5年度の実施実績及び令和6年度の実施状況について

- ① 新子育て安心プラン実施計画における保育の利用状況と今後の取組について
- ② 認定こども園の設置状況と幼保連携型認定こども園の認可手続き等について
- ③ 地域子ども・子育て支援事業について
- ④ 保育士等の人材確保と質の向上について

(2) 審議

第三期 三重県子ども・子育て支援事業支援計画の策定について

(3) 情報共有

- ① 保育士支援アドバイザー等派遣事業の実施について
- ② 「こども誰でも通園制度」の概要について

※上記議題を予定していたところ、当日は、台風10号の接近に伴う危険回避のため、会議形式を当初の会場集合（一部オンライン出席）からオンライン方式（一部会場出席）に変更することとし、また、会議時間を一時間短縮し、議題については、(2) 審議「第三期 三重県子ども・子育て支援事業支援計画の策定について」のみとすることで((1) 報告および(3) 情報共有については資料参照)、会議内で了承された。

(2) 審議

第三期 三重県子ども・子育て支援事業支援計画の策定について

注：文章中の（P+数字）は、会議資料のページ番号を示している。

(事務局)

資料5に基づいて説明

(委員意見等)

・幼児教育・保育の無償化（P29）について、「指導監督基準を満たさない認可外保育施設への対応」としてはありますが、これは待機児童対策として有効的に活用するという意味なのか、それともこうした施設は減らしていくということなのか、どういう考えか。

・保育園、こども園や私立幼稚園における人材確保（P30）は、現場も本当に苦労しているが、県としては、見通しはどうか。

（事務局）

・情報共有させていただくが、認可外保育施設に係る保育料の無償化について、この9月末までが無償化の特例の延長期間であるが、本県では、外国にルーツがある子どもたちを預かる施設で無償化の要件達成が困難な施設があり、期限までに間に合うように取組を進めている。

・認可外保育施設については、過去に受け皿整備という視点で施設数が増えたという経緯はあるが、大きい保育園がいい、小さい認可外保育施設がいいなどさまざまなニーズがあるので、自然体に任せたい。

・人材確保の件については、難しい問題と捉え、日々議論している。先日、保育の専門の方などにもご意見を伺っており、保育士のキャリアラダー（職務内容やスキル向上の道筋をはしごを登るように示したもの）が必要であるという意見、保育士の離職防止のための職場環境の改善、保育士の処遇の改善が必要であるという意見など、さまざまなお意見をいただいた。特効薬は見いだせていないが、県の立場でできることを、継続的に行っていくことが大事だと考えている。

（委員意見等）

・愛着形成といわれる発達の段階が子どもにとって非常に大事なことであるが、施策において子育ての中でどう保障していくかということが見えてこないと感じたが、そのあたりはどう考えているか。

（事務局）

・愛着形成について、はっきりと記載していない。地域子ども・子育て支援事業の事業メニューの中（P9～15）に、母子保健や児童福祉に関わる事業で、市町と連携して実施していくものがいくつかあるので、そのような中で記載できるかどうか、検討していきたい。

（委員意見等）

・公立、私立ともに、保育士の確保や放課後児童クラブの指導員の確保は厳しいので、これからも取組への支援をお願いしたい。加えて、ファミリーサポートセンターの援助会員（支援する側の会員）について、会員の高齢化や会員数の減少の問題があるので、援助会員の増加の取組にも着目してほしいということを提案したい。

・地域子育て相談機関の整備について市町に求められているが、これについて記載する必要はないか。

（事務局）

・ファミリーサポートセンターの提供会員の高齢化については、我々も認識しており、市町とも情報共有しながら、市町がその確保策をうまくまとめられるように検討していきたい。

・地域子育て相談機関についても、整備の必要性を認識しているので、市町への必要な対応を検討していきたい。

(委員意見等)

・保育園、こども園、幼稚園等と小学校等との連携の方策(P29)に、ぜひ力を入れていただきたい。文科省も、市町の教育委員会にきちんと対応するように指導していくとの方針である。

・外国につながる子どもへの支援(P30)については、子どもだけでなく、保護者にも寄り添っていくような支援を考えてほしい。

(事務局)

・幼稚園等と小学校の連携については、教育委員会等とも情報交換しながら検討していきたい。

・外国につながる子どもへの支援について、言語の問題が大きいですが、子どもたちだけでなく、保護者も含めて寄り添った支援が大事であるので、市町や関係部局とも情報交換しながら検討していきたい。

(委員意見等)

・ファミリーサポートセンターでは、定年延長も一つの要因として、援助会員(支援する側の会員)の確保が難しくなっている。また、そもそも「お互いさま」という考え方が活動の基本的な理念であるが、現状、依頼する側の考え方がすごく変わってきている。

(事務局)

・お互いさまという考え方は、ファミリーサポートセンター事業の基本理念をはじめ、地域で子育てをするという思想の中で大事な部分であるということも踏まえ、県としても取組を進めていきたい。

(委員意見等)

・他人を自分のことのように考えていけるか、それがお互いさまの精神の土台。このような基本的なことがどこかで疎かになっていないか、行政も目を向けてほしい。

・きちんと子どもの意見を受け入れながら、施策を考えることが必要であるとする。

(事務局)

・子ども条例の改正やこども計画の策定に取り組んでいるところであるが、ちょうど今、子どもの意見を聞いて施策に反映していく土壌を作っていかなければなりませんねという議論になっている。

(委員意見等)

・男性の育児参加や女性の働き方改革というところは、どこの項目に入ってくるのか。

(事務局)

・10番の「仕事と子育ての両立支援」(P30)というところで、男性の育児参画の推進などについても触れていきたい。

(委員意見等)

・男性が育児休業を取ったときに、育児において感じる大変さや孤独感がよくわかると思うので、そのような世界に飛び込もうとする男性のことを応援できる社会にしていくことが大事かなと思う。

(委員意見等)

・こども誰でも通園制度(P36~37)について、保護者の関心は高いかなと思う一方、施設や保育士の側には、どこまでその受け皿を用意できるのか、三重県で本当に可能なのかと心配する意見がある。

・詳細がこれから決まってくると思うが、保育の現場が混乱しない、保護者も利用しやすい制度にしないと、絵に書いた餅になってしまうと心配をしている。

(事務局)

・我々も、現段階での国の説明では、全体像がまだ見えないと思っている。県としても、皆さんときちんと情報共有し、いい方向に持っていけるよう、県の立場で頑張ることだと思っている。

(事務局)

・本会議は、今年度は、本日を含めて3回の開催を予定している。第2回の開催を11月に予定してしているので、ご出席をお願いします。